

大都市制度史（続）

8日のレポートで『大都市制度史』通史編を紹介したが、写真は名古屋都市センターにある資料編（1976年刊行）である。3巻で4000ページを超える大著であり、とにかく重い。特別市や指定都市制度など、戦前から戦後の大都市制度史を検証するうえで貴重な資料だ。とりあえず目次（編）だけでも下記に示して、時間をかけて読んでいきたい。



第1巻

- 1 市制町村制の制定まで
- 2 市制の施行と3市特例の時代
- 3 東京市単独の特別市制運動時代
- 4 大正時代における特別市運動
- 5 昭和10年までの特別市制運動
- 6 昭和11年から終戦までの特別市制運動
- 7 大都市制度の創設過程から第1次特別市制運動の終息まで
- 8 地方行政調査委員会議と第2次特別市運動の再開

第2巻

- 8 地方制度調査委員会議と第2次特別市運動の再開
- 9 警察法の改正経過と市町村自治体警察の廃止
- 10 地方制度調査会の「地方制度改革に関する答申と大都市制度」

第3巻

- 11 昭和30年の地方自治法改正案の提案から指定都市制度の誕生まで
- 12 第4次地方制度調査会の「地方制度改革に関する答申」の経過
- 13 経済高度成長下の地方制度改革の動向と大都市制度
- 14 社会経済情勢の変化に伴う大都市問題
- 15 新指定都市の誕生
- 16 大都市の特例の現況一覧



「巻末によせて」に次のように記してある。本書の目的は、「大都市制度の経過を振り返って、その歴史的な推移を記録するとともに今後の大都市制度のあり方を検討する基礎資料として、大都市制度史を編さんする」ことであり、したがってその実態を正確にかつ刻明に記録することが基調であった。

(2015年5月11日)